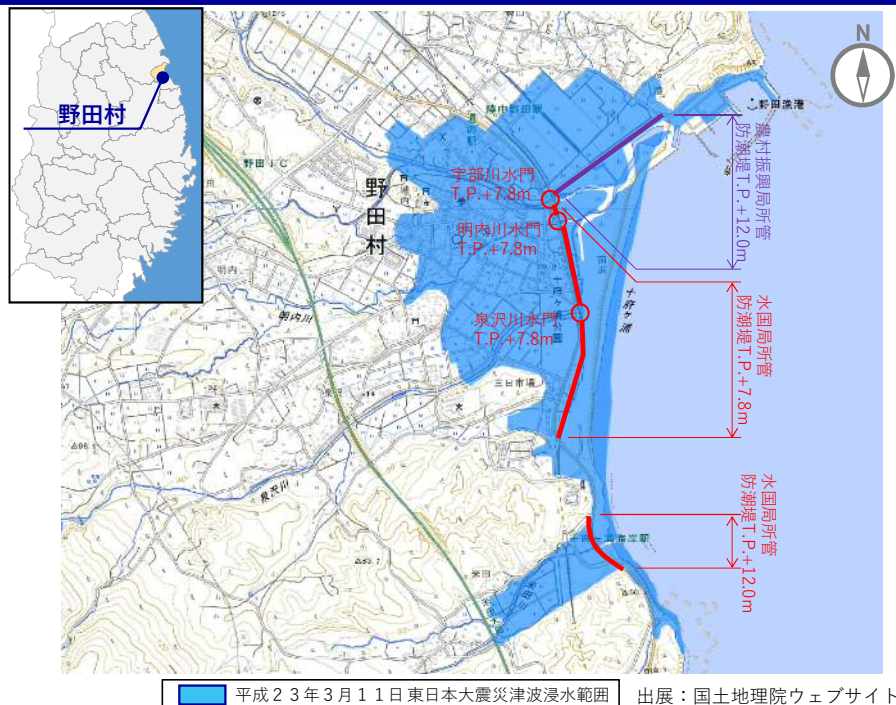


## 1. 被災前の状況



## 3. 被災状況



水門背後地の被災状況



水門より海側の被災状況



扉体の被災状況



水門上屋の被災状況

## 2. 被災前後の比較



H22.3.9 撮影



H23.3.28 撮影

## 4. 津波対策の基本的な考え方

## 【頻度の高い津波への対策】

- 発生頻度は**高い**（数十年～百数十年）
- 人命を守ることに加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化などの観点から、比較的頻度の高い津波に対して**津波対策施設を整備**する。

## 【最大クラスの津波への対策】

- 発生頻度は**低い**
- 施設整備に必要な費用や、海岸の環境、利用に及ぼす影響等の観点から、整備の対象とする津波高さを大幅に高くすることは**非現実的**。
- 人命を守ることを最優先とし、**住民の避難を軸に土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせ**
- 堤防については、施設に過度に依存した防災対策には限界があることを認識しつつ、低頻度ではあるが大規模な津波に対しても粘り強さを発揮する構造を検討

## 【新しい発想による津波防災まちづくり】

- 地域ごとの特性を踏まえ、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせ、総動員させる「**多重防御**」の発想による津波防災・減災対策を実施
- 従来の堤防の「線」による防御から「面」の発想により、河川や道路、土地利用規制等を組み合わせたまちづくりの中での津波防災・減災対策

## 5. 計画堤防高の設定

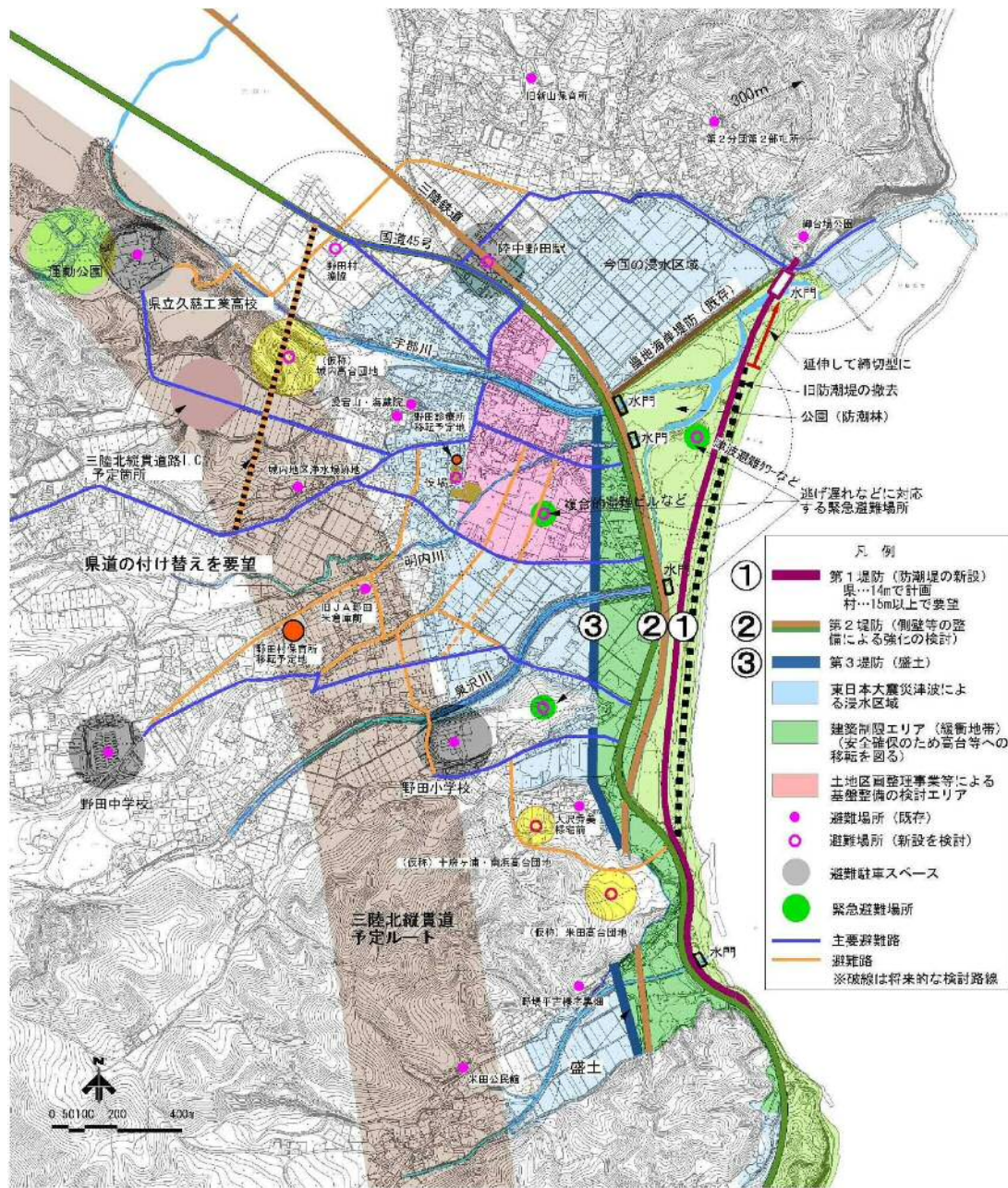
- 平成23年7月8日付け海岸関係省庁通知に基づき、以下の手順で計画堤防高を設定

- ① 過去に発生した津波の中から設計対象津波を選定
- ② せり上がりを考慮した津波の水位を算出し、設計津波の水位を算定
- ③ 設計津波水位に余裕高1.0mを加えた高さを新計画堤防高として設定
- ④ 但し、設定した計画堤防高が被災前に計画していた堤防高を下回る場合は、被災前計画高を新計画堤防高とする

## 【新計画堤防高】

- 上記による検討内容について、「岩手県津波防災技術専門委員会」において審議し、野田海岸の新計画堤防高を**T.P. +12.0m**と設定。
- 津波対策施設は、海側へ新たに第一線堤をT.P.+14.0mで整備することとし、既存の水門・防潮堤は**原型復旧**を行い、第二線堤とする方針とした。

### 6. 野田村まちづくり計画

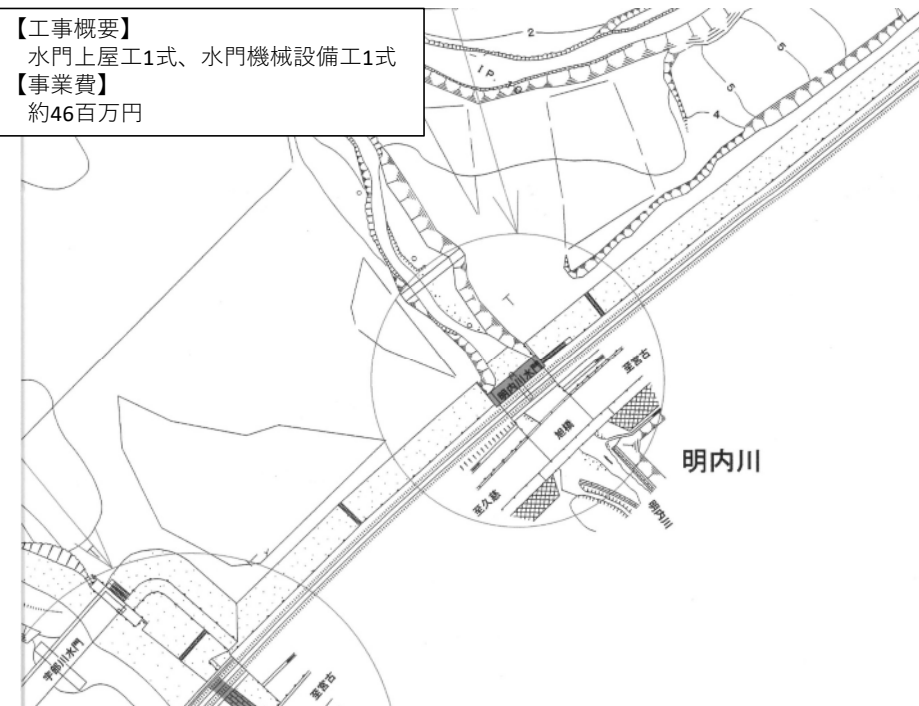


- 凡例
- ① 第1号防波（防波堤の新設）  
堤…14mで計画  
村…15m以上で要望
  - ② 第2号防波（別荘等の整備による強化の検討）
  - ③ 第3号防波（盛土）
  - 東日本大震災津波による浸水区域
  - 建築耐震エリア（緩衝地帯）  
（安全確保のため高台等への移転を図る）
  - 土地区画整理事業等による基礎整備の検討エリア
  - 避難場所（既存）
  - 避難場所（新設を検討）
  - 避難駐車スペース
  - 緊急避難場所
  - 主要避難路
  - 避難路
  - ※破線は将来的な検討路線

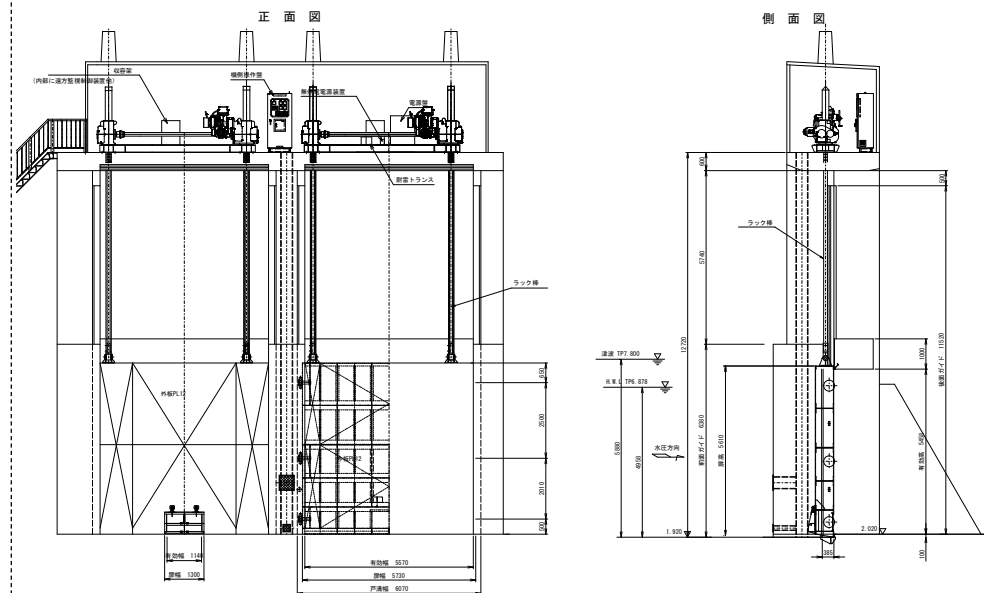
※野田村東日本大震災津波復興計画より

### 7. 計画平面図

【工事概要】  
水門上屋工1式、水門機械設備工1式  
【事業費】  
約46百万円



### 8. 水門一般図



9. 着工から完成まで

平成23年3月



平成23年7月



平成24年8月



完成年月：平成25年3月

